

国立教員養成大学・学部における教科教育カリキュラム実態調査分析 ～中高 教科教育コアカリキュラムの策定に向けて～

調査の概要

◆課題認識

・教科教育のコアカリキュラム作成に資するための現状の調査分析が必要。

◆調査研究の目的

・「教科に関する科目」の授業内容等の現状を明らかにする。

◆調査研究の方法

・提供を受けた「履修の手引き」や調査対象大学のシラバスを分析する。

◆調査研究校

・教職大学院を有する国立の教員養成大学・学部。
・単科大学13（北海道教育大学は札幌校・釧路校・旭川校ごとに分析）、教育学部36。

◆現状

・「一般的包括的内容を含む科目」を調査対象にして、国語・社会・数学・理科の状況を調査。学習指導要領で扱うとされる内容をバランス良く配置する授業もあれば、授業担当教員の専攻する内容中心の授業もあった。

取組のポイント・成果

◆取組のポイント

- ①「教科に関する科目」を調査する対象の中核として「一般的包括的内容を含む」科目に着目
 - ・調査対象大学・学部から「履修の手引き」を提出してもらい、カリキュラムを分析し、各大学・学部において「一般的包括的内容を含む」とする科目を抽出。
- ②「一般的包括的内容を含む」科目の現状分析
 - ・調査対象大学学部のシラバスを分析し、「一般的包括的内容を含む」科目の現状を調査
 - ・学習指導要領で取り扱うべきとされる教科内容を調査し、各大学学部の現状も踏まえつつ、「一般的包括的内容を含む」科目として含まれるべき事項を教科ごとに選定した。
 - ・調査対象の全ての大学学部の「一般的包括的内容を含む」科目について、選定した事項がどのくらい取り上げられているか、シラバスの記載を通して、調査した。
- ③調査対象大学学部における、中学校・高等学校の教員免許取得のための教育組織やカリキュラム構造を調査した。

◆成果

- ・調査対象大学における国語、社会、数学、理科の中学校（あわせて高等学校）の教職課程における現行の「教科に関する科目」のなかの「一般的包括的内容を含む」科目について、その現状と学習指導要領で定められた教科内容を踏まえた標準的な内容を提示した。
- ・「一般的包括的内容を含む」科目としての標準的な内容をもとに、現行の各大学の「一般的包括的内容」を含む科目の状況を調査し、表に整理することによって可視化した。

今後の課題

◆「教科に関する専門的事項」（現行「教科に関する科目」）の在り方の検討

- ・「一般的包括的内容を含む」科目とそれ以外の科目の関連の在り方の検討
- ・「一般的包括的内容を含む」科目以外の「教科に関する専門的事項」に関する科目の在り方の検討